

メルクリアリス “*De Arte Gymnastica*” 第3巻第1章試訳

根本 想¹⁾

Mercurialis “*De Arte Gymnastica*” Volume 3 Chapter 1:

A Japanese Translation with Notes

So Nemoto

Abstract

This article presents a Japanese translation of chapter 1 from volume 3 of Mercurialis’ “*De Arte Gymnastica*,” accompanied by annotations. It marks the initial endeavor to render this text into Japanese. The translation is grounded on a revised edition and consulted Nutton’s English translation from the same edition as necessary.

Citation:

Mercurialis (2008) *De arte gymnastica*, edizione critica a cura di Pennuto, English translation by Nutton. Leo S. Olschki.

The paper illuminates that Mercurialis not only introduced the “*De Arte Gymnastica*” within the ancient Greek and Roman classics but also actively structured it in his distinctive manner.

Key words: ars gymnastica, gymnastica medica, Renaissance, Plato, Galen

キーワード：体操術，医学的体操，ルネサンス，プラトン，ガレノス

I はじめに

メルクリアリス (Hieronymus Mercurialis; 1530–1606) は、16世紀イタリアの医師・人文主義者である。彼はパドヴァ大学で医学を学び、生涯にわたって医学の研究や実践を行った。1562年から約7年間、ローマ教皇パウルス3世の孫であるフォルネーゼ枢機卿の侍医を務め、彼の宮廷サークルに参加しながら古典古代の文献を研究した。特に、ギリシア語やラテン語原典における「体操術」、すなわち “ars gymnastica (希: ἡ γυμναστική τέχνη)” について詳細な調査を行った。この時期

の研究成果が、メルクリアリスの主著であり体育学の古典でもある“*De Arte Gymnastica*” (以下 “DAG.”) の出版に結実した。

DAG. は、1569年に初版が出版され、その後も版を重ねていき、体育学の古典として後世に読み継がれた。具体的に述べると、メルクリアリスの生前には、1569年にヴェネツィアで刊行された初版 (V69版) を皮切りに、1573年にヴェネツィア (V73版)、1577年にパリ (P77版)、1587年にヴェネツィア (V87版)、1601年にヴェネツィア (V01版) で出版され続けた。「近代体育の父」とも称されるドイツのグーツムーツ (J.C.F. GutsMuths ;

1) 育英大学教育学部教育学科スポーツ教育専攻

1759-1839) も主著『青少年の体育』(グーツムーツ, 1979)において、*DAG.* の構成を引き継いでいるという(高橋, 2003)。

DAG. は、全6巻全71章からなる大著で、前半の第1巻から第3巻が古代編、後半の第4巻から第6巻は現代編となっている。古代編では、第1巻で医学の起源や“*gymnastica*”の定義を説明し、第2巻で古典古代に行われた運動を紹介し、第3巻で古典古代のより日常的な運動(歩行、呼吸、発声等)の紹介がなされている。そして現代編では、前半の各巻の記述内容の現代的な意義や効果について順に説明されていく構成となっている。

国内におけるメルクリアリス研究は僅少であるが、高橋(2003)によって*DAG.* の内容が詳細に紹介されている。しかしながら、それ以降研究の進展がみられることはなく、*DAG.* の日本語訳については部分訳もなされていない。一方で国外では、2006年に仏訳が付された*DAG.* 第1巻の校訂版(Mercurialis, 2006)、2008年には英語による全訳が付された*DAG.* 全6巻の校訂版(Mercurialis, 2008)、2016年には医師ヨハン・クラート(Johannes Crato; 1519-1585)と約12年間交わした書簡の校訂版(Mercurialis & Crato, 2016)が出版されるなど、一次資料の充実が図られている状況にある。二次資料についても、2006年にイタリアフォルリで開催されたメルクリアリス没後400周年記念シンポジウムの発表論文を基にした論文集(Arcangeli & Nutton (eds), 2008)が刊行されている。このように、国外ではメルクリアリス研究の進展がみられる状況にある。

そこで、本稿では、未邦訳である体育学の古典、*DAG.* の一部を日本語に訳出して紹介することを目的とする。具体的には、古典古代の日常的な運動について論じた第3巻の「課題と原則」について記された第1章を訳出する。以下に試訳部分の概要を示す。

DAG. 第3巻第1章の冒頭では、第1巻および

第2巻で扱われてこなかった運動を紹介していくことが宣言される。実際に*DAG.* 第3巻を読み進めると、「呼吸(*spiritus*)」や「発声(*vociferatio*)」などが“*ars gymnastica*”の一つとして取り上げられている。たしかに第3巻で扱われる種々の運動は、古代ギリシアの体育場(ギュムナシオンやパライストラ; 詳細は後述)で熱心に行われていた運動や、プラトンも重視した舞踊といった運動とは異なるものであり、古代ギリシア・ローマの著述家たちにおいても積極的に紹介される類のものではなかった。しかし、この古代ギリシア・ローマにおいても十分に注目されてこなかった運動は、健康および身体を最良の状態にすることに資するため、第1巻および第2巻で扱われた運動に劣らず、“*ars gymnastica*”について考究する本書において重要であることが述べられる⁽¹⁾。

このように、*DAG.* 第3巻では、現代の日本で「体育」について考える際にほとんど注目されることのない「呼吸」や「発声」といった運動が“*ars gymnastica*”の一つとして位置づけられている。したがって、*DAG.* 第3巻には、私たちが考える体育の「当たり前」を相対化する可能性も秘められているのである。体育思想史研究が、学校体育における既存の枠組み自体を問い直して、いまとは異なるあり方を思考するための一つの方法(根本, 2021)であるとするならば、*DAG.* 第3巻は体育思想史研究において、きわめて重要な研究対象になると考えられる。

II 凡 例

・翻訳の底本として以下の校訂版を用いた。

Mercurialis (2008) *De arte gymnastica*, edizione critica a cura di Pennuto, English translation by Nutton. Leo S. Olschki.

・訳出にあたっては、上記校訂版のNuttonによ

る英訳、Galanteによる伊訳(Mercurialis, 1960)、DAG.の内容について紹介した高橋(2003)による先行研究も参照した。

- ・本文中の()は原語を、[]は訳者による文意の補足を明示するものである。また、文意を明確にするために原文にはない「」を加えた箇所もある。
- ・原文では一つの段落や文が非常に長い箇所が多くみられる。Nuttonによる英訳では、段落は原文に従っているものの、原文にはない句読点を加えて文を区切っている。本訳では、可読性を高めるために、英訳を参照しつつ訳者の判断で適宜改行や句読点を加えた。

Ⅲ 試 訳

第1章

本論考〔第3巻〕の課題と原則

私たちは、前の巻〔第1巻および第2巻〕において、古代ギリシア・ローマで広く行われていた種々の運動(exercitatio)について、できるだけわかりやすく説明してきた。おそらく、ここまで述べてきた運動に劣らず知っておくべき多くの運動がまだ残っている。たとえそれらのほとんどが、体育場(gymnasium)⁽²⁾において目立って行われていたわけでも舞踊に関係していたわけでもなかったにせよ、また前の巻⁽³⁾で一般的な体操(universa gymnastica)が体育場的体操⁽⁴⁾と舞踊的体操に分類されることが適当であると考えていたにせよ、それでも私たちは〔体操の〕全体(cuncta)を扱うべきであると判断した。なぜなら、たとえ厳密ではないとしても、一般に運動と呼ぶに値するものならば、何にせよ体操から排除されてはならないからである。

さらに、すべての医師は、「身体の良い状態(bonus habitus corporis)」と「健康(valetudo)」

に資するものが同一であることを認めている。このことから、私たちの研究は、健康に資すると判断され、かつ身体を「最良の状態(optimus habitus)」にすると判断されたすべての身体運動を扱うという点に、特に関心を置いている。それゆえ、私たちは、これらすべての身体運動のそれぞれに関連した体操について考察することを決めたのである。それらのうちの一つでも扱わないでおくことは不適切であり、私たちの意図に反することになるだろう。

また、実際のところ医学的体操(medicina gymnastica)のみについて論じようとしているにもかかわらず、私たちは競技(athletica)的体操⁽⁵⁾に関する多くの事柄と、軍事(bellica)的体操⁽⁵⁾に関するきわめて多くの事柄を織り交ぜていた。さらに、私たちは依然として三つの体操を織り交ぜて論じようとしているが、この点について誤りとして非難すべきではない。なぜなら、私たちにとって第一の目的、そして独自の目的は、医学的体操について話すことだからである。だが今後も私たちは、三つの理由から残りのもの〔競技的体操と軍事的体操〕を〔議論に〕付け加えた。まず、残り二つの体操の状況が簡潔に理解されることで、第三の体操〔医学的体操〕の状況の全体的な性質が認識されるようになることが挙げられる。次に、古代ギリシア・ローマの著述家たちによって、雑然と一緒くたにされ、あるいは少なくとも区別されずに伝えられてきた各々の体操が、私たちの分類によって完全に区別されることで、読者たちに誤る余地が残らなくなるからである。最後に、競技者、軍事に精通した者、さらには健康の専門家までもが、同じ運動をしばしば用いていた事実が判明したからである。

しかし、もし私たちが医学的体操のみについて話をしていたなら、読者はほとんど必然的に、この一つの体操だけが存在したと信じるか、あるいは少なくとも他の体操の規範や起源がこの一つの体操に由来したと考えてしまっていたらう。こ

のことが、〔古代ギリシア・ローマの〕著述家たちの読解に際してどれほど大きな誤解を招くことになったか、ほどほどであれ学問に携わった者なら誰一人として認識できない者はいなかっただろう。さらに、もし誰かが、医学的体操について私たちが記述してきたことや後により詳細に語られることと、他の二つの体操について私たちによって語られたこととを比較してみようと思うなら、後者の二つの体操がきわめて小さな部分しか占めていなかったことを確実に認識し、それゆえ私たちが他の何かではなく、あくまでも医学的な分野の体操術について扱おうとしたことについては、疑う余地もなく明らかであり、このことは決して否定できないだろう。

たしかに一人の人間にとって、この体操〔医学的体操〕は身体への配慮に専念しているように思われるが、それでも身体と魂を同時に訓練するものである。このことはプラトンが『ティマイオス』において忠告していた。すなわち、理性に従った魂の動きによって自身を飼いならし、矯正し、導くようにさせることで、身体が力強さと厚みゆえに過度に暴れることを許さないよう配慮してふるまうように、と⁶⁾。

運動競技はそれ〔身体と魂の訓練〕をもたらさず、そしてそれゆえ正当に組織されたあらゆる国家によって力の限り非難され、不名誉にも放逐されたのだ、とガレノスはしばしば説いたのであるが、この点に関して、私たちは以下の根拠を用いて正しく弁明すべきである。すなわち、不当に多くのことを語っていると仮に誰かが断じた場合、私たちが運動競技について論じたのは、いわゆる「爪痕から (ex ungue)」⁷⁾ その本質を見極めることによって、訓練の誤り、および競技者の生活習慣における歪みを認識し、認識したうえでそれを遠ざけ、回避できるようにするためである、と。

【注】

(1) DAG. 第3巻第1章では、この後に医学的体操、競

技的体操、軍事的体操の3区分が持ち出され、本書の第一の目的が、医学的体操について考察することであることが示される。しかし、上記体操の3区分と第1巻、第2巻、第3巻のそれぞれで扱われる運動がどのように対応しているのか、第3巻第1章の記述のみからは把握することができない。DAG. で扱われる種々の運動と体操の3区分との対応関係について整理する作業については今後の課題としたい。

- (2) 原文の“gymnasium”は、古典ギリシア語の「ギムナシオン (γυμνάσιον)」に由来するラテン語である。ガーディナー (1982) によると、古代ギリシアにおいてギムナシオンは、「裸体で行う運動の一つ」を意味しており、初期はギムナシア (γυμνασία) という複数形で用いられていたが、後に単数形で運動を行う場所を示すようになったという。また、一般的にギムナシオンは公共の施設で都市の郊外に設けられ、すべての市民に開放されていた。実際には、青年たちが競技会に向けて練習を行う場所として用いられることが多かった。ギムナシオンの中にはレスリング場であるパライストラ (παλαιστρα) (注4参照) も含まれることが一般的であったとされる。
- (3) DAG. 第2巻第2章を指す。当該箇所では、「医学的体操の区分」というタイトルで、プラトンの『法律』(プラトン, 1993a, 1993b) 第7巻に依拠して、運動をパライストラ (注4参照) で行われる運動と舞踊に分類している。しかし、メルクリアリスはDAG. 第2巻第2章においても、プラトンの分類に全面的に賛同しているわけではなく、第3巻で扱っていく歩行などの運動が漏れていることを指摘している。なお、プラトン自身も上記以外の分類によって運動を区分する場合もあった (高橋, 2003)。
- (4) 「体育場」と訳した箇所の原文は、古典ギリシア語の「パライストラ (παλαιστρα)」に由来するラテン語の“palaestra”であるが、文脈をふまえて当該箇所の“palaestra”は直前のギムナシオンの言い換えであると判断した。パライストラは、古代ギリシアにおけるレスリング場であり、子供たちが身体修練を行った。基本的には教育に用いられる場所であったことから、パライストラの多くは都市の内部にあり、所有者は学校教師が多かったとされる。とはいえ、郊外のギムナシオンの中にもパライストラが併設されることが一般的であったという (ガーディナー, 1982)。
- (5) “athletica”と“bellica”は形容詞であるが、いずれ

も女性単数奪格で用いられていることから、直前の“gymnastica”が省略されているものであると解釈し、「競技〔的体操〕」、「軍事〔的体操〕」と訳した。また、DAG.における形容詞“gymnasticus”は、“gymnastica”、“gymnasticam”といった女性形だけでなく“gymnasticos”のような男性形や“gymnasticum”のような中性形でも用いられている。DAG.における形容詞“gymnasticus”の用例の詳細な分析については、今後の課題としたい。

- (6) 『ティマイオス』87C-88E (プラトン, 1975, pp.168-171)
- (7) 以下の古典ギリシア語による格言のラテン語訳が念頭にあると推察される。

γιγνώσκομεν ἐξ ὀνύχων τὸν λέοντα, ἐξ φόδης τὴν ἀηδόνα, ἐκ λόγων τὸν κόλακα, ἐκ φωνῆς τὸν κήρυκα, ἐξ ἔργων τὸν θεόν (田中・松平, 2012, pp.73-74 ; 下線部引用者) .

(私たちは爪痕から獅子を、歌から鶯を、言葉から追従者を、声から伝令を、業から神を知る。)

すなわち、ここでの“ex ungue”は、爪痕から獅子を知るように外形的なしから本質へとたどることを表現していると考えられる。

【引用・参考文献】

- Arcangeli & Nutton (eds.) (2008) *Girolamo Mercuriale Medicina e Gultura Nell' Europa del Cinquecento*. Leo S Olschki.
- ガーディナー：岸野雄三訳 (1982) ギリシアの運動競技.

ほるぷ出版.

グーツムーツ：成田十次郎訳 (1979) 青少年の体育. 明治図書出版.

Mercurialis (1960) *Arte ginnastica*, traduction d' Ippolito Galante. ILTE.

Mercurialis (2006) *L'Art de la Gymnastique, livre premier, édition, traduction, presentation et notes de Agasse*. Les Belles Lettres.

Mercurialis (2008) *De arte gymnastica*, edizione critica a cura di Pennuto, English translation by Nutton. Leo S. Olschki.

Mercurialis & Crato (2016) *Une correspondance entre deux médecins humanistes*, Édité par AGASSE & PENNUTO. Droz.

根本想 (2021) 古代ローマ体育思想史研究序説. 現代スポーツ評論, 44 : 123-129.

プラトン：種山恭子・田之頭安彦訳 (1975) 『ティマイオス』、『クリティアス』(プラトン全集 12). 岩波書店.

プラトン：森進一・池田美恵・加来彰俊訳 (1993a) 法律 (上). 岩波書店.

プラトン：森進一・池田美恵・加来彰俊訳 (1993b) 法律 (下). 岩波書店.

高橋幸一 (2003) 古典体育の再生—メルクリアリス—。スポーツ学のルーツ—古代ギリシア・ローマのスポーツ思想—。明和出版, pp.145-182.

田中美知太郎・松平千秋 (2012) ギリシア語入門 新装版. 岩波書店.

(2024年1月5日受理)

